

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670101973
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム よしの村
訪問調査日	平成 21 年 9 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 11 月 01 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月4日

【評価実施概要】

	4670101973
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホームよしの村
所在地	鹿児島市吉野町3823 (電話) 099-244-9006

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市塩山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年9月29日 評価確定日 平成21年11月01日

【情報提供票より】(平成21年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 16 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 23.1

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,900~31,500 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円) 〇無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	1 名	女性	26 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	75 歳	最高	106 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科
---------	--------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはあやめ・さくら・すみれと3棟の建物が並列に建ち、敷地周辺は大きななどぐりの木で囲まれ庭のコスモスの花、畑の野菜など自然環境に恵まれた一つの村のようである。母体医療法人と訪問看護ステーションの協力体制が整備され、利用者の健康面や医療面が組織的に確立されている。ホーム主催の納涼祭は地域住民の参加が年々増えて今年322名の記録であった。また地域住民と年間を通じた友好関係構築に「憩いの花壇づくり」という斬新的な園芸活動の取り組みを始めている。職員は利用者が地域住民の温かな支えとふれあいの中で過ごして貰いたいと願い地域との交流を工夫し頑張っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題は、①地域密着型サービスとしての理念の検討をする。②自己評価記入の仕方について、取り組みの事実、取り組んでいきたい内容を具体的に記入する。③家族の金銭管理の確認方法。④職員の段階的な研修計画と年間研修計画の作成。の4項目であったが、③④について改善されている。①については継続課題として残る。②について一部理解されていない棟も見受けられるが、概ね改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各棟の職員全員に自己評価票の白紙を配り、各棟の主任が中心になってまとめている。管理者が目を通し、理解されていない項目については考え方の指針を説明し、再度各棟で取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は利用者家族・地域住民代表(町内会会長・民生委員・校区社会福祉協議会代表)・包括支援センター職員・母体医療機関理事長・管理者・職員が2ヶ月に1回開催し、ホームの状況を報告し、ホームの運営上の問題点を課題の中心に話し合い、避難訓練に地域住民が参加するようになったり、納涼祭開催に当たっては地域の人から広報活動から準備の支援をもらっている。今年度は地域住民との友好関係構築に「憩いの花壇づくり」の取り組みを討議するなど活かした取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族にはホームたよりや訪問時(毎月の支払時、面会時)には暮らしぶりや健康状態など報告している。年2回の家族会、運営推進会議、家族の訪問時には意見や要望、苦情など表しやすい雰囲気づくりに努め、些細な内容も職員間で話し合い日々のケアに活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域住民として清掃活動や地域活動に参加している。地域住民からはホームの納涼祭開催には広報活動や開催に向けての協力をもらい、ホーム行事の誕生会、運動会、避難訓練などにも協力をもらっている。近隣の保育園との定期的な交流や中学校のバザー参加や職場体験学習の受け入れなど双方向的な交流が図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人経営理念として地域の人々に親しまれる介護施設を謳っているが、事業所独自の地域密着型サービスの理念にはなっていない。	○	地域密着型サービスとして支援していく為の理念を話し合い、事業所独自の理念をつくっていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間に理念を掲示し、明るいホームを目指し笑顔絶やさないよう意識して取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域住民として清掃活動や地域活動に参加している。地域住民からはホームの納涼祭開催の広報活動や開催に向けての協力をもらい、ホーム行事の誕生会・運動会・避難訓練などにも協力をもらっている。近隣の保育園や中学校との交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度外部評価の改善点4項目の内1項目については今後も課題として残る。自己評価の取り組みについては評価票を全員に配り書き込みをもらい、各棟の主任が中心になって改善点を話し合いながらまとめている。管理者は目を通し理解されていない項目については説明を行い再度各棟で検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者家族、地域住民代表(町内会長、民生委員、校区社会福祉協議会代表)包括支援センター職員、母体医療機関理事長、職員などで2ヶ月に1回開催され、利用者やホームの状況を報告し、ホーム運営上の問題点を中心に話し合い、避難訓練に地域住民の参加があったり、納涼祭の広報活動の協力をもらうなどサービス向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホーム よしの村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回介護相談員の受け入れをしている。保護課とは連携を行い交流している。包括支援センターとはオムツの申請をしたり、ホームの敬老会や夏祭りなどの行事に参加してもらったり、地域ネットワーク情報をもらい参加するなど連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族にはユニット毎で2～3ヶ月に1回たよりを発行して活動や職員異動などの報告をしている。家族の訪問時には暮らしぶりや健康状態を話し、日誌の開示や金銭出納の確認もしてもらっている。往診結果の変化や急な連絡は電話で伝え、遠くの家族には手紙を書くなど個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や運営推進会議、家族の訪問時など家族の意見、不満、要望など表しやすい雰囲気づくりに努めている。些細な内容であっても職員間で話し合い日々のケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動やユニット間の異動もあるが支障が起らないように、最少限の異動や1か月前に移動の発令をするなど配慮している。退職者があった場合は長く勤務している職員がダメージにならないように気を付けて対応している。	○	過去1年間の離職者が多い。職員の異動は利用者のみならず不安でなく、家族にとっても不安であり、運営者は法人間の異動配慮だけでなく離職に対しても最小限に抑える検討をしていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会、ユニット単位の勉強会、全ユニット合同の勉強会など年間の研修計画を立てて取り組んでいる。また職員の段階的な研修計画も作成し、必要な外部研修に参加できる機会の確保を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとは職員交流が行われておりミニコンサートには利用者も一緒に参加している。包括支援センターの呼びかけで吉野・川上地区ネットワーク「よかど会」(14グループ)が立ち上がり吉野地区の第1回勉強会が開催され3名参加するなど質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望をされる本人、家族には事前にホームの見学をしてもらい納得した上で入居してもらうようになっている。希望があれば体験利用もできるがまだ利用には至っていない。入院から入居になる利用者には職員が出向いて顔馴染みの関係をつくり入居してもらうよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や趣味など情報を共有しながらその人の立場に立って会話や対応をするように心がけている。筆字の好きな人には当日の献立を書いたり、戦争体験を教えたり、ちらし寿司の混ぜ合わせ方を教えてもらうなどお互い支え合い感謝しながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向については入居時に聴取し、入居後においても毎日の暮らしの中で声かけを行いながら把握し本人が望む生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員は毎月のモニタリングと3ヶ月毎のケアカンファレンスで(日頃の関わりでの本人・家族の要望や希望・身体状況の把握したことや関係する訪問看護師の意見など)職員と様々な意見交換をしてそれらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の6ヶ月の期間に応じて見直しを行うと共に、担当者による毎月のモニタリングと3ヶ月毎の評価を行い、対応できない変化があった場合はその都度本人・家族・必要な関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		

鹿児島県 グループホーム よしの村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療機関・訪問看護ステーションと連携して緊急時の対応、月4回の往診、週1回の訪問看護など機能を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関のかかりつけ医の他、家族が希望するかかりつけ医についても(歯科・皮膚科の受診や往診、精神科や心療内科の受診など)適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りの指針を定め入居時に家族に説明をしている。病状の状態に応じて家族の意向を確認しながら主治医、看護師、職員で話し合い全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は利用者に対して入室の声かけ、名前の呼び方、誘導の声かけなどプライバシーを損なうことが無いよう気を付けている。記録の管理や個人情報の取り扱いについても適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ユニットにおいて1日の流れはあるが、利用者の体調や個々のペースに合わせて買い物、散歩、入浴、就寝、趣味などできるだけ希望に沿えるように支援している。		

鹿児島県 グループホーム よしの村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成は利用者の好みのメニューや意見を聞き、食事の準備・片付けは利用者のできる力を活かしてもらうように声かけをしている。職員は音楽を流し、一緒に食事をしながらさりげなく介助したり、話しかけたり楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は各棟において毎日利用可能・日曜日だけ休み・午前中の利用時間・午後の利用時間など対応に違いがあるが、どの棟においても利用者の希望入浴日・希望時間には柔軟に対応して入浴を楽しんでもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仏壇にお茶や水を供える・鉢植えの霧吹き・お天気カレンダーの色付け・ティッシュ折り・当日の献立を書く・ボタン付け・掃除・食事の手伝いなどの役割で個々の張り合いある支援や、テレビ視聴・新聞・読書・散歩・ドライブ・野菜作りなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気、利用者の体調、気分を見ながらホームの敷地内や周辺の散歩、買い物、ドライブなど外出支援をしている。庭には花や野菜を植えテーブルやベンチを設置し、お茶を飲んだり、花見をしたり、日向ぼっこしたり外気に触れて気分転換できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。外に出たい人もあり、棟によっては日中はセンサーの音で気づくようにしている。職員は声を掛け合いながら利用者の所在確認をし、出かける様子の時は一緒に散歩している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回(避難、消火、通報)行っている。非常連絡網には地域の協力者名もあり地域の協力体制ができています。	○	地震、風水害などの災害時対応についても日頃からどのように対応するかを話し合っ全職員が共通の認識で対応できるように災害対策マニュアルを備えていただきたい。

鹿児島県 グループホーム よしの村

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が栄養バランスを考慮した一週間分の献立を立て、一人ひとりの状態や力に応じた調理をしている。食事や水分摂取量は毎回チェックし記録している。摂取量や体重の変化に注意し栄養士の指導を受けながら減量したり、高カロリージュースの対応を行ったり調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は建物の中央にあり、天窓からの明かりを利用している。夏場の直射日光をすだれで和らげるよう工夫している。テレビの前にリラックスできるソファが置いてある。テーブルにコスモスの花を飾り、壁には月見の貼り絵を飾るなど季節感がある。畳の間に仏壇を備え家庭的で落ち着いて過ごせる共用空間がつけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の間でベットが設置してある。それぞれの家庭から使い慣れた椅子や絨毯・タンス・テレビ・時計・杖・大切なアルバムなど持ち込み、好みの石原裕次郎・氷川きよしのポスター・手作り作品・花などを飾り本人が落ち着ける部屋の工夫がしてある。		